

平成29年度 施策評価表

課・グループ名	生涯学習課学校教育グループ
---------	---------------

作成年月日：平成30年 9月28日

施策名	3-(2)-③ 高等学校の充実と支援		
1. 施策の現状分析及び展開方向			
政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	3. 地域に根ざした教育と文化の高いまちづくり	(2) 地域とともにある学校教育の推進	③高等学校の充実と支援
①施策のねらいと展開方向	<ul style="list-style-type: none"> ● 南幌高校が目指す「魅力ある」学校づくりの取り組みに対して、継続して南幌高校振興協議会を通じて支援するとともに、生徒の将来に向けた進路実現と充実した学校生活を送れるよう支援します。 ● 高校生の通学に係る費用の一部を助成し、子どもの教育に係る保護者の経済的負担の軽減を図ります。 		
②施策の現状と課題	現 状	課 題	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 南幌高校では、以前より募集定員に満たない状態が続いており、北海道教育委員会からは、今後の中学校卒業生数の状況等から、平成31年度までは、1学級とする公立高等学校配置計画が決定しています。 ● 南幌高校では、ボランティア活動への積極的な参加、住民への公開授業の実施、学校広報誌の町内全戸配布等、地域の学校としての定着と充実にあります。また、各種検定資格の取得、インターンシップ活動、進路指導の充実強化に努めています。 ● 南幌中学校から南幌高校への進学率は低く、町外の高校への進学者が多い状況にあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 南幌高校への進学率を高めるため、地域に根ざした特色ある学校づくりを支援する必要があります。 ● 進学及び就職等の進路充実に図り、特色ある教育活動の展開や魅力ある学校づくりが求められています。 ● 町外の高校へ通学させている保護者にとって就学に係る費用が負担となっています。 	

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況								
① 成果指標	設定の意図			まちづくりの成果指標名		数値化		
				成果指標 (総合計画・施策評価)		可能		
						○ 不可能		
						未計測		
				代替指標 ※成果指標がない場合		指標の設定		
南幌高校支援と高校生通学費は、それぞれ独立しており連動性がなく、どちらかの指標を代替指標として設定することは難しい。 両事務事業の達成度から施策の達成状況を確認する。				可能 ○ 不可能				
※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。								
② 指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由	
		H26	H27	H28	H29	H33		
	目 標							
	実 績							
達成率								
評価視点		評価結果			理由、課題・問題点			
③ 施策の達成状況		A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である)			施策の達成度	南幌高校については、「魅力ある高校づくり」として、資格取得や進学入学補助により支援を行うことで生徒の受験意欲の向上に努めているが、依然として入学者数の増加を図ることが出来ず厳しい状況となっている。		
		B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である)						
		C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)			C			
		D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい)						

3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】事務事業の種類	【必要性】事務事業の必要性	【妥当性】町の関与の妥当性
(1) 自主事業(自主)	(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの	(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
(2) 施設管理事業(施管)	(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの	(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業
(3) 経常的事務(経常)	(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの	(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業
(4) ハード事業(ハード)		

①事務事業評価結果

事業番号	事務事業名	種類	所管課名	成果指標	評価年度(H29)		事務事業の内容	必要性	妥当性	事務事業評価結果(方向性)	事業費(千円)		施策への貢献度 <高い> <普通> <低い>
					目標	単位					H29実績	H30予算	
					実績								
1	南幌高等学校支援事業	(1)	生涯学習課	南幌高校の生徒数のうち1年生の人数	40	人	南幌高校が目指す「魅力ある」学校づくりの取組みに対して、南幌高校振興協会を通じて支援するとともに、生徒の将来に向けた進路実現と充実した学校生活を送れるよう支援を行う。	II	I	1 現状のまま継続	1,799	高い	
					12	人					2,800		
2	高校生通学費補助事業	(1)	生涯学習課	助成者率	95.0	%	・通学先の学校により一律の金額を補助する。 ・学業のための助成を基本的な考え方とし、休業期間中を除き年間10ヶ月分とする。	II	I	1 現状のまま継続	16,201	高い	
					93.3	%					16,709		
年度別施策全体の事業費合計(千円)													
H29事業費											18,000		
H30予算											19,509		

②H30に実施した新規事務事業

	実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H30予算(千円)
1					
2					
3					

評価視点	評価結果	理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	・南幌高校の募集停止案が示されたが、南幌高校振興協会と町が主体となって、魅力ある高校づくりに向けた支援を関係機関と協議しながら行う必要がある。 ・高校生通学費補助については、交付対象者の支給率が93.3%であることから、支給率を上げるため、町広報誌での啓発や未申請者への個別通知など継続的に行うことが必要である。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)	
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)	
	事業構成の妥当性	A

4. 今後の方向性 ※外部評価(行政評価委員会)

①総合評価 (今後の展開、事業の見直し等) 委員会評価	【評価】 特に課題とすべき指摘事項はない。	事業の方向性 優先度 A~D (ランク)	事業番号					平成30年度以降の予算の方向性	
			A						
			B	2					拡大
			C	1				○	維持
			D						縮小